

しずおか平和の風

No.14
2016年6月22日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8
TEL 253-1854
FAX 252-0785
メール
Peace-City
@mail.707.to

明日をつくるのは私たち 選挙で変えよう！！

6月5日に「明日を決めるのは私たちー政治を変えようー」6・5全国総がかり大行動が行われました。この運動に呼

新婦人静岡支部・吉澤はつ江さんのスピーチが好評だったので要旨を紹介しま

6月4日、「女の平和

戦争を止めようー国会ヒューマンチエーン」に参加しました。発言の中で、自衛隊員の母親（平和子さん）の話に胸を打たれました。「目の中に入れても痛くないほど可愛かった息子、かけがえない息子を殺されたくない、そして他国の人の命を奪ってしまう事になるのもいやだと、胸がつぶれる程考えて考えて、戦争法に反対する行動に立ち上がった。でも、そんなことをしたら、息子に迷惑がかかるから、行動を起こす前に息子との縁を完全に切った。私は、かけがえない命を守ることを選んだ。」同じ母親として、このお母さんの気持ちが痛いほどわかりました。

グ、音楽、みんなのスピーチなどが行われ、パレードでは呉服町を通る市民ににぎやかに訴えました。

自衛隊員の家族も皆同じような不安と心配で、胸が痛む思いをしているのではないでしょう。ふと前を見ると、警護の若い警察官が、目をこ



↑「6・12選挙で変えようアクション」葵区・青葉公園

すっていました。この母親の話を聞いて故郷のお母さんを思い出して涙したのだと思います。自衛隊員、警察官、その家族達、全ての人と手をつなげる、と確信しました。

6月2日、南スーダンPKOに第10次隊の2陣

120人が新千歳空港から南スーダンに派遣されました。私が以前勤めていた小学校でも教え子のお父さん達が派遣されていて、帰国するまで子どもたちは随分寂しい思いをしました。でも、今回は、戦争法が施行されてからの派遣です。いつ戦争にまきこまれるかもわかりません。子どもがお父さんを泣きながら追いかけると言う記事を読んだ時、何としても死なせてはいけません！そして殺させてはいけません！と強く思いました。

戦後71年間一人も戦死者を出してこなかった日本の平和が壊されようとしています。選挙後、憲法を変え天皇を元首にし、国防軍の創設を考え

ている自民党、安倍は、絶対に許せません！また、福島原発事故の救済や賠償も済まない内に再稼働を認め、外国にまで原発を輸出しようとしている安倍内閣には退陣してもらった方がいいです。

平和を守るため、命を守るための戦いです。何としても負けられません。そのためには、目の前に迫った参議院選挙に全力で立ち向かおうと、決意を新たにしています。

一人一人ができる事を一杯ががんばることが大事だと思います。隣の人や友人知人に声をかけをし、電話をかけ、チラシをまいて、投票日まであきらめずに行動をひるげまじょう！



誰が言ったのでしょうか？ 平和・歴史クイズ (解答は裏面)

合戸 政治

- ①「ヘーゲルは歴史は繰り返すと言ったが、一言付け加えるのを忘れていた。一回目は悲劇として、二回目は喜劇として」 ()
- ②「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを楽しく」 ()
- ③「この機会に、満州事変に始まるこの戦争の歴史を十分に学び、今後の日本のありかたを考えていくことが、今極めて大切なことだと思っています」2015年1月1日 ()
- ④「我々日本は蹂躪されてもかまわないから、絶対戦争放棄でいくべきです」1948年11月インタビューに答えてNHKで放送 ()
- ⑤「小さいことを積み重ねることが、とんでもないところに行くだけ一つの道」 ()



最近「ザ・思いやり」というド

キュメンタリー映画を観た。これはアメリカ人が作ったものだと知り、びっくり！日本ではあまり知らされていない米軍への思いやり予算、「日本の皆さんこれで黙っていろいのですか？」と言われていたようだった。

最近の沖縄女性暴行殺害事件に、日本の政府は「再発防止、綱紀粛正を！」など米軍に申し入れたといつてます。どうして。沖縄県民の怒りは頂点に達しているんじゃないの？

いや、私たちにはこんな事件が幾たびかくり返されているのに、なぜ沖縄に新基地を作ろうとしているのか？日本政府は本当に国民のことを守ろうとしているのか？こんな政府には「NO！」の怒りをぶつつけたい。

いよいよ参議院選挙、私たちの思いを一人でも多くの人と共有し、消費税の先送りなどにだまされず、平和な日本を次世代に引き継ぎたいものだ。

黒田 久予

松永一男さんの体験記事を読んで

日米安保条約が結ばれ、日本が独立国になった頃生まれた私は、戦争の実相を知りません。徴兵された父から戦地での様子を聞いたことはほとんどなく、子供の頃は銃後の不自由な日常のさまを家族から聞いて戦争の酷さを思う程度でした。父母たちはむしろ戦後の生活の立て直しに必死だったのでしょう。『野火』に描かれたような残酷な戦争を想像したのは大人になってからでした。

豊川海軍工廠についての知識はありませんでした。戦争に使われた武器製造について深く考える事が無かった私にも、松永さんの体験記事を通じ「戦争の何たるか」の種々相が見えてきました。

戦争はある日突然始まるのではなく、足音もなく忍び寄り、気づかぬうちに徐々に思想統制されていき、彼のような徴用工員や動員学徒、朝鮮人などが、嚴重に包囲され軍隊化した工場内で、人権など皆無でも個人的憤懣として自己解決し、すべての国民に「日本が戦争に勝って終結するまでの小さな我慢」を強制ととられぬように見事に導いたのが国家。自分たちが一生懸命働くほど勝利に近づき、生活や待遇の不満は自分より下を見て紛らせるという論法を植え付けたのは見事なものだと思います。工場で働けることは誇りでもあったかもしれないとも思いました。

(もちろん、矛盾や違和感を覚える人もいたでしょうが。)

昭和20年8月7日のB29の工廠爆撃による2500名以上の犠牲。広島の日原に、しかもたった30分で壊滅し、空襲警報や退避命令発令の有無も定かではないとの事。何という酷いことでしょう。戦争は徹底的に敵を攻撃、凡人の命が鳩毛より軽いのはこの工廠も同様だったと知り、継ぐ言葉は見つかりません。10月の正式解散が工員たちに敗戦を初めて突きつけたのではないのでしょうか。松永さんは7円の一時的金をどんな気持ちで貰ったのでしょうか。(壊滅しても軍には金はあったのかと驚きましたが。)

安倍政権下の今、忍び寄る足音に強い危機感を覚えます。防衛装備の基礎研究費が年々驚異的に増加し、研究者たちは軍事に利用されないかとの危惧を抱きつつも、研究費捻出のために防衛庁の公募に乗る大学などが増えているという新聞記事を読み、昭和10年代と変わらぬ歩みを感じ、そら恐ろしくなります。日本人はあの時代の流れを学習しなかったのでしょうか。それとも忘れてたか、鈍麻したかのいずれかとしか思われません。私たちは今も少しずつ思想統制されています。それを食い止めるために、松永さんのような体験者からあの時代をどんな気持ちで生き、戦争がもたらしたものが何であったかを伺い、そこから想像力を働かせ学んでいきたいと思ひます。

(山本)



↑ 豊川海軍工廠供養塔 (豊川稲荷境内)

松永さんの証言は 何を問うているのでしょうか。

鈴木 正

前号の松永一男さんの豊川海軍工廠の証言「知っている」「わかっている」と読み流してはいけないと自戒しつつ読みました。

- ①「米は自分について回る。住所も仕事も勝手に変えられない」「イヤダナー、イヤダナー」と思っていた松永さんに『徴用ヲ命ズ』と。
戦中、居住、移転の自由、職業選択の自由を奪った時、なんという理屈で、国民を納得させたのでしょうか。「米がついて回る」ように仕組んだ巧妙な国とはなんだろう？
- ②30分足らずの間に、2500余人の死者を出した工廠の空襲。(静岡空襲での死者は2000人余) 広大な工廠も測れば2000m×1200m(地図上)。なぜこんなに多くの死者を出したのだろう？
- ③「工場の中は泥棒が多く、まるでしょうがなかった」(別の証言)
「遺体は置かれたが野良犬や時計を持ち去る者があり、見習生徒30人くらいで10m間隔で警備した。」(桜ヶ丘ミュージアム刊)「河原に落ちた米機の兵に群衆が石を投げたり、小便をひっかけていた」(静岡) — 「忠君愛国」「教育勅語」の支配していた日本でのこと—これをどう考えたらいいのでしょうか？
- ④「こうして今、みなさんにお話できること、幸せです。」松永さんの実感のこもった言葉です。なにをさして「幸せ」と言っているのでしょうか？
- ⑤「仲間が天皇のために犬死にされた」(電話での言葉)。「犬死」にさせないために私たちは証言を聞き、生きているのではないのでしょうか？忘れてはならない「記憶」がある(なにか?)、その「記憶」を死なせないことが私たちに求められているのではないのでしょうか。

いずれも私に答える力がありません。「いずれそのうち」と考えていけば、忘れるに違いないと思うのです。それを恐れるのです。

1945年8月7日の空襲による死亡者数 豊川海軍工廠供養塔より

都道府県・国外別										部 別	
愛知	1169	兵庫	15	千葉	4	徳島	2	職 員	103		
静岡	331	奈良	28	山形	13	福岡	1	総務部	204		
三重	39	和歌山	4	青森	2	佐賀	3	大工部	632		
山梨	65	東京	47	北海道	3	長崎	4	機銃部	346		
長野	114	滋賀	24	広島	25	熊本	2	光学部	111		
岐阜	90	神奈川	13	山口	2	鹿児島	5	指揮兵器部	122		
石川	50	茨城	4	高知	8	大分	3	機材部	176		
富山	10	栃木	5	岡山	7	宮崎	1	会計部	178		
福井	32	埼玉	9	鳥取	5	沖縄	4	医務部病院	17		
新潟	15	福島	16	島根	3	朝鮮	23	工員養成所	83		
京都	27	宮城	2	愛媛	4	県不明	99	学徒	452		
大阪	79	秋田	5	香川	8			派遣兵	120		
										合計	2544

戦争惨禍 佐藤 正

また不自由はなかったのです。当時、父は美術商を営み堅調でしたが、16年の太平洋戦争が始まると暗転しました。「欲しがりませんが、勝つまでは戦争国策があったからです。商品が全く売れなくなる。思案しましたが、いきつまたた父は自殺の道を選んだのです。

残された母子は当然のように母の実家、静岡へ移転。食糧難で、雑炊やイモをかじりながら生きるために母と買い出しです。ある時、急に米軍の爆撃機が来、空襲になりました。防空壕も隠れる所もなかったため、無人の焼き場(火葬場)に隠れました。

その時、爆風で戸がガタガタと揺れる中、母が私の目をじっと見、「あなたの住所を言ってみなさい。」と突然言ったのです。母の気迫におそれ、私は「志太郡広幡村鬼島」と答えました。「もし自分がここで死ぬようなことがあったら、この子は…」、私が身元を無事に明らかにできるかどうかを、母は心配したかと思ひます。

その母は戦後、栄養失調になり間もなく病死しました。空襲だけが戦禍ではなく、関連死というの忘れないで、知ってほしいのです。文字どおり、命をかけた一日一日の生活だったのです。



私の生まれた昭和15年は、まだ世の中は平穩でした。東京・世田谷の生活で、両親と兄弟3人の暮らしはまだ

◆◆◆ 平和・歴史クイズの答え ◆◆◆ ①マルクス ②井上ひさし ③明仁天皇 ④石原莞爾 ⑤イチロー